



もともとあったガレージの2階部分を増築。しかし、周りと協調するように外壁はシンプルに深い緑に塗った。



デザインなどはこの2階のパソコンで。細長いオフィスのほぼ中央にモーテンは座り、部屋全体が見渡せる。

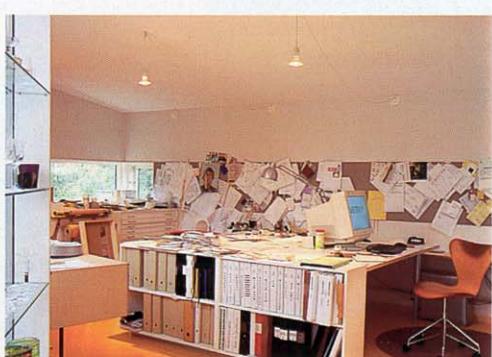
**work  
at  
home**



ガレージの1階は、制作工房。2階の「デザインルーム」と階段でつながり、行き来しながら作業する。



オフィス入り口を入ると、壁とテーブルが白で統一されている。中央奥が長く伸びるクリップボード。



2階の窓際には、シレーンがデザインしたカトラリーやボウルのプロトタイプなどが置かれている。

窓にはガラス板のうえにミニチュア椅子。ルーバーと格子状になって、センスを感じるディスプレイ。

なんとも素朴で手作りの味が伝わるガレージ。緑を背景にしたその姿眺めていると、日本でも決して不可能ではないと思えてくるのだ。



ストックホルムの中でもガムラスター地区（旧市街）では、文化遺産の住宅が多く、狭いうえに改装もままならない。そんな環境に見切りをつけたモーテン・シレーンは、郊外に飛び出した。そして手に入れたのが、緑に開まれた一戸建てのホーム・オフィスだ。もともとついていたガレージを、インテリア・デザイナーである妻の協力を得て増築することに。「第一に考えたのは、周囲に迷惑にならないこと。隣家の日照を確保し、緑と同化するように外壁も塗り替えた」環境にうまくとけ込むオフィスはシレーンの狙い通り。しかし、内部は目にも眩しい白の壁が北欧らしい。家具や照明などのデザインを得意とするシレーン。思いついたデザイン画で、オフィスはすぐにいっぱいになってしまふ。それを象徴するのが、長く伸びたクリップボード。整理できないのなら美的に散らかしてしまおう、という発想らしい。デザインが完成したら、階下の工房ですぐにプロトタイプの制作。椅子くらいならすぐに組み立て終わり、白い棚にのせたら“吟味”だ。

# 深い緑にとけこむ、郊外型の手づくりガレージ・オフィス



●1958年ウプサラ生まれ。コンストラクターデザイン国立大学卒業。84年からデザイン活動を始める。イケアなどのデザイナー。7つのプロダクトがスウェーデンのグッドデザイン賞を獲得。